6 生物多様性の保全

生物多様性豊かな「湘南平塚ゆるぎ 里地里山」自然共生サイト認定および地域生物多様性増進法に基づく取り組み

中央日本土地建物が保有する「生物多様性豊かな“湘南平塚ゆるぎ 里地里山”」（神奈川県平塚市）において、里地・里山の保全に関する取り組みを推進しています。本エリアは、豊かな植生と多様な動植物が生息する約23haの里地・里山であり、2024年3月には環境省の「自然共生サイト」に認定されました。さらに、自然共生サイトを中核とした取り組みをより持続的かつ実効性のあるものとするため、産・官・学・民の四者連携の継続・積み重ねにより「生物多様性豊かな“湘南平塚ゆるぎ 里地里山”次世代につなぐSATOYAMA共生計画」を策定し、2025年4月に施行された「地域生物多様性増進法」に基づく認定を取得しました。本計画では、里地・里山や湿地環境の保全・復元、生態系モニタリング、環境教育や体験活動を通じた地域との関わりの深化などを位置づけ、法制度に基づく「地域生物多様性増進活動」として推進しています。四者連携とは別にNPOやボランティア等とも持続可能な体制を構築しつつ、これらの取り組みを通じて、地域の自然資本と生物多様性豊かな環境を次世代へ継承するとともに、「30by30」に代表される国際目標の達成や、ネイチャーポジティブの実現に貢献していきます。

●ワークショップの開催や散策路の整備

公益社団法人 国土緑化推進機構 National Land Afforestation Promotion Organization

平塚市や大学などと連携したワークショップの開催やボランティア団体との協働、定例巡回の実施を通じて、散策路周辺の整備活動を実施しています。（「緑の募金」を活用）

●吉沢八景「菜の花畑」生育・景観づくり

自然共生サイト認定 30by30

地元協議会、NPOやボランティア団体と共に連携し、吉沢八景の「菜の花畑」の生育や景観整備を行っています。

●トンボの里整備

内閣総理大臣認定 公益財団法人 公益推進協会

地元協議会による平塚市市民活動推進補助金を活用して完成したトンボの里では、新たに助成金を活用して柵の更新を実施し、トンボの生育と整備維持活動に協力しています。（「自然公園等保護基金」を活用）

6 生物多様性の保全

自然環境の保全と、地域資源を活かした地域活性化の取り組み事例

2010年に中央日本土地建物、平塚市、東京農業大学、「湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会」で「産・官・学・民」の四者協定を締結しました。「恵まれた自然環境をいかして地域を活性化し、交流の輪を次世代につなぐまちづくりを目指す」を目標に掲げる地区まちづくり計画に賛同し、協議会とともに推進します。

2021年に「湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会」のホームページが開設され、地域内外に向けてゆるぎ地区の魅力や活動報告を発信しています。

ホームページ Instagram

●吉沢八景等の整備

2016年に「産官学民による選定プロジェクト」として吉沢八景が選定・公表されました。吉沢八景の「ゆるぎの丘の菜の花畑および周辺」や「トンボの里」を中心に、景観整備・美化推進のために除草作業や樹木の枝・落葉の除去などの整備活動をNPOやボランティア団体と共に継続しています。

●NPO法人による農作業体験農園

2022年に「NPO法人湘南平塚きさわ里地里山ラボ」が「ゆるぎの丘里山農園」を開園し、農作業体験講習会を通年開催しています。2025年4月から2026年3月（四期目）には延べ約500名が13回の農作業を体験し、東京農業大学教授による講習会も3回開催されました。地区まちづくり計画の実現に向け区画を増加し、交流・関係人口の増加を図っています。

●ワークショップの推進

2025年11月に「東京農業大学との協働・東海大学との協力によるワークショップ」を開催。「農ある暮らし」と「里山自然観察」のコースメニューを通じて、一般参加者及び学生、地元住民の皆さま等総勢55名が交流を図りました。

●地区まちづくり計画の策定・認定

本計画は、自然共生サイトを中心とする「自然環境の維持・保全」と、クラインガルテン（滞在型市民農園）を中核とする地域活性化を促進し、両立させる計画です。「産・官・学・民」の四者連携体制のもと、本計画の実現に向けた取り組みを更に推進します。

●環境教育

2025年5月に地元小年生32名が「ゆるぎの丘」の生き物をテーマに課外授業を行い、専門家の説明を通じて生き物の生態や生息場所を学びました。また、2025年10月には地元保育園関係者が菜の花畑の種まきに参加し、環境教育の一助となりました。さらに2025年10月には当社社内のSDGｓ研修も開催しました。

●トンボの里の整備・活用

「トンボの里づくり」構想に基づき、平塚市市民活動推進補助金を活用して完成したトンボの里において、トンボの生育・観察調査や維持整備活動を継続しています。専門家によるヤゴやトンボの捕獲・観察など、自然共生サイトのモニタリング調査を実施しています。

ゆるぎの丘 菜の花畑の整備

除草活動

地元小学校、保育園と実施した環境教育活動

農業体験

ワークショップ

6 生物多様性の保全

オフィスビル・住宅などにおける緑地環境整備

生態系がもたらすさまざまな恩恵の重要性を認識し、不動産開発に伴う生物多様性への影響を緩和するとともにその保全に貢献しています。分譲マンションの敷地内や保有不動産の公開空地などを利用して緑地環境整備を図り、植栽の種類や緑地面積の増加に取り組んでいます。
また、中央日本土地建物グループは「経団連生物多様性宣言イニシアチブ※1」への参画を表明しています。このイニシアチブは、企業が生物多様性に配慮した経営を実践するための枠組みを提供し、持続可能な社会の構築に向けた具体的な行動を支援しています。

●京橋エドグラン

ヒートアイランド現象などで悪化する都市環境において、安らぎや憩いの場となることを目指し、施設の中心に設置した高さ約31mの開放的なガレリア空間を取り囲むように各階に広場を設け、緑豊かな植栽と日の光や風を感じることができる心地よい空間を整備しました。

●バウス所沢小手指タワー

敷地内に在来種を中心とした多様な植栽を配置し、周辺環境と連続性のある緑地空間を整備しました。生きものの生息・移動に配慮したランドスケープ計画とすることで、地域の自然環境との共生を図っており、生物多様性保全の取り組みを評価するABINC認証を取得しています。

●REVZO虎ノ門

環境への配慮と優れた緑化計画を行い、その緑地を維持している事業者を表彰する「港区みどりの街づくり賞」（令和4年度）と「港区景観まちづくり賞奨励賞」に選出されました。エントランスおよび各階のバルコニーに設けられた多種多様な植栽が創り出す立面などが緑豊かな都市を形成する取り組みと評価されての受賞となりました。

※1　一般社団法人日本経済団体連合会が制定した「経団連生物多様性宣言」の趣旨に賛同する企業・団体が参画するもの。
経団連自然保護協議会：https://www.keidanren-biodiversity.jp/